

68回目の慰霊の日を迎えて

沖縄戦はまだ終わっていない

6月23日沖縄は68回目の慰霊の日を迎えます。日本に置いて唯一地上戦がおこなわれた沖縄では、多くの民間人が犠牲になりました。沖縄県民の4人に1人が犠牲になった言われています。幸いにも助かった人たちもいまだに戦争の影におびえています。沖縄戦体験者の4割が心的外傷後ストレス障害（PTSD）に悩まされています。（2013.6.15沖縄タイムス）

花火・雷・音光それに軍用機でよみがえる戦闘場面

地獄のような悲惨な体験は68年経ても、「花火や雷の音や光」「軍用機」などがきっかけで発症するといわれています。沖縄においては米兵が起こす不祥事、またオスプレイが強行配備され、訓練が繰り返されています。沖縄戦体験者は軍人が起こす事件やオスプレイの姿や騒音に沖縄戦が再現されるのです。体験談は悲惨です。ガマと呼ばれた壕の中で軍から自決用に渡された手りゅう弾で腕の中に抱いた幼子とともに爆発させ、自らは助かり片腕と幼子を亡くしたという人は幼子と共に無くなった手が今なお痛むという話を聞いたことがあります。沖縄戦は68年たった今でもよみがえるのです。いまだに薬がないと眠れなかったり、急に不安に襲われるなど症状は様々です。

沖縄の人たちの心の平安はいつ来るのか

心の傷は過酷な体験によりつけられ、理不尽な人々によりさらに傷を深めさせられています。癒すための努力をしない限り心の傷は消えることはないのです。いまだ苦しむ沖縄の人たちに心のケアを早急にしなければならぬと地元紙は訴えています。80歳を超えていまだに戦争の影におびえる人たちを国はどう思っているのでしょうか。オスプレイは日米合意に反し訓練は激しさを増しています。今日も沖縄の空を我がもの顔で飛んでいます。何よりも沖縄戦で苦しめた人達を今なお苦しめ続けているのです。島のおじい、おばあはまだ戦争の真ただ中にいるのです。私たちは二度と悲惨な状況を作らないため努力しなければいけません。

見えない傷を癒やすのは平和しかない！